

第28期第11回常任理事会議事録

日時：1995年9月19日 13時30分～18時50分

場所：気象庁内日本気象学会事務局

出席者：松野，関口，磯部，大西，小倉，斉藤，里村，
白木，竹内，田中，永田，中村，新田 以上
13名（全員）

議事：

1. 第28期第10回常任理事会議事録の確認
原案どおり承認。
 2. 各委員会からの報告及び審議
庶務・転載許可3件（気象集誌，研究ノート，予稿集）
 - ・後援名義等使用申請1件を常任理事会として承認
海洋理工会平成7年度秋季大会協賛（同学会主催，95年10月，東京都千代田区）
 - ・米国 UNCOVER COMPANY から気象集誌の複写権料21ドルの支払いがあった。これについて，契約などの事実関係に不明な点が多いため，事務局で相手方に確認することとする。
 - ・科学新聞社から依頼のあった「学術用語集集成」の増補改訂版に「気象学編」を組み入れることの依頼があったことについて常任理事会として審議。最終改訂が87年で内容が古い点について読者の注意を喚起するため，各用語集の発行年を記載するなどの条件付きで組み入れを承認。
 - ・在インドネシア日本大使館から依頼のあった気象集誌1部を毎号寄贈する件について常任理事会として了承。
 - ・気象学会が編集する「気象科学事典」の編集委員会の構成を小倉義光（編集委員長），木村龍治，立平良三，時岡達志，横山長之，大西晴夫の各会員としたことを報告。
- 会計・95年7，8月の収支状況を報告。全体的には順調な推移。学会事務局の使用料について気象庁の見直しがあり，予算より7万円程度多い支出となった。
- ・来年度予算案の作成を開始した。今年度と比べて事業収入の減が予想されるが，各担当から事業計画を聞きながら考えていく。
- 天気・9月号の内容及び10，11，12月号の予定を報

告。

- ・和達さんを偲ぶ特集号の別刷りを800部印刷。「偲ぶ会」，気象官署などに配布した。まだ残部あり。
- ・編集書記が大井戸和子さんから関口昌子さんに交代した。

気象集誌・10月号を印刷中。一般論文5編，HEIFE関係8編。HEIFEの残り10編近くは12月号に回す。

- ・集誌の印刷等を ELSEVIER に移管する件で，編集委員会と ELSEVIER で話し合いをもった。参加した編集委員は全体として ELSEVIER に移管する方向を支持。外国人編集委員を半数程度にすることや日本語アブストラクトを残すかどうかなどについて検討課題として残った。

これについて常任理事会でも討議。年間720ページという条件が厳しすぎると，ページ数を制限内に納めるために大学院生の論文の掲載が難しくなったり，増ページのために学会からの支出が増加するのでは，などの懸念も出された。秋季大会時に開催する一般会員との懇談会なども参考に，じっくりと検討を続けることを確認。

研究ノート・「乾燥地の自然環境」を9月に発行。

- ・近ぢか編集委員会を開催し，今後の編集計画を議論する。

講演企画・8月25日に委員会を開催。秋季大会のプログラム編成と大会のありかたなどを討議。講演申し込み件数は325件で，ポスターの36件は過去最高。このため，ポスターセッションを2回に分けて行うことにした。大会のありかたについては，講演企画委員会として統一した見解を示すまでにまとまらなかった。（常任）理事会で議論することが適当。

これを受けて常任理事会として討議。VTR やスライドの利用が少数であるため，これらの設備の操作は講演者（が依頼した補助者）が行うこととし，講演募集時に明記する。VTR やプロジェクターの用意は実行委員会でを行うが，講演日時の調整などにより極力集約化を図る。春季・秋季大会の性格付け，ポ

スターセッションの拡充，講演時間の延長などにつき，講演企画担当と庶務担当理事で改革案のタタキ台を作成し，次回理事会に提案する。

教育と普及・夏季大学の決算を報告。受講者アンケートでは内容については概して好評。今回は質問する人が多く，非常に活発な討論であった。150人程度の受講希望があったが100人程度しか受講できなかった問題で，来年は大きな会場で行う方向で検討する。

- ・「教養の気象学」改訂の基本方針が決まった。教科書としても使えるが教養普及書としての性格を持たせることに重点を置く。気象に関心のある一般読者，大学教養課程学生，中学・高校教員を対象とする。「何でものっている本」よりは「項目間の関連が見通せて，納得できる解説をしている本」を目指す。A5版210ページ，3～4千円程度。

総合計画・8月10日に木田，関口，大西の3理事が集まり今後の方向について議論した。流体地球関連学会間の横の連絡を取り合う組織作りの問題，気象予報士発足で中断していた学会独自の気象技能認定制度の問題について，今回の理事会に木田理事からタタキ台を提案することにした。

- ・技能認定制度に関連して8月10日に気象庁の民間気象業務担当者の考え方を聞いた。気象庁としても後援できること，委託機関としては気象業務支援センターが考えられることなどの情報交換を行った。

各賞・学会員からの一般推薦と「学会外各賞推薦委員会」の選考結果を勘案したうえ，日産科学賞，東レ科学技術賞，朝日賞につきそれぞれ1名を推薦した。井上学術賞についてもちかぢか推薦する。

- ・猿橋賞については常任理事会の指摘にもとづいて再検討したが，今回は推薦すべき該当者なしとの結論になった。

国際学術交流・2名から申請が出ている。9月中旬に委員会を開き審議する。

パソコン通信・6～8月のアクセス数783回。

- ・データベースの中に「学会案内」を設けた。入会申込書をここからダウンロードして利用できる。

- ・学会 BBS のインターネット接続を検討している。現在の通信管理ソフトでは対応できないので，更新するパソコンに新しい管理ソフトをのせる。BBS 利用者の e-mail 利用を実現したい。それ以上の高度な利用は予算的に難しいと思われる。

その他・(田中理事) 地球惑星関連学会連絡会がありこれに出席した。来年3月に大阪大学で開かれる合同大会には従来どおり参加しないが，シンポジウムには参加する方針。常任理事会として「固体地球と流体地球のカップリング・ダイナミックス—GPS 気象学」の気象学会窓口を田中博理事と決める。

3. 会員の新規加入等について

個人37名の入会を承認。個人3名の退会を報告。

4. 堀内基金奨励賞候補者・奨励金受領候補者投票結果について

標記について全理事による可否投票を行った。27名中25名から投票があり，いずれの候補者も選定規定で必要とされる数以上の承認を得られた。受賞・受領者は以下のとおり。

堀内基金奨励賞

竹内謙介(北海道大学低温科学研究所)

「西太平洋大気海洋相互作用 (TOGA-COARE) 研究計画を中心とした熱帯大気海洋結合系の研究」

奨励金

小澤英司(秋田地方気象台)「東北地方の局地気象に関する調査研究」

河合宏一(品川区立伊藤中学)「生徒の実体を考慮した気象教育改善のための研究」

中吉一行(佐賀地方気象台)「台風の最大風速と最大瞬間風速の関係」

西岡佐喜子(奈良地方気象台)「太平洋域の上層雲量等と西日本の天候についての研究」

5. 地学関連学会連絡協議会について

地学教育学会からの標記協議会の結成呼びかけにつき，第9回常任理事会(6月15日)の決定にしたがい第1回会合(9月11日)に出席した件につき，庶務担当理事から以下のように報告。「中央教育審議会等での指導要領見直し作業に地学関連学会として意見を反映するための運動をしていこうとの趣旨であった。会合では総論として会を作ることが支持されたが，運動の進め方，議決のありかたなどについ

て慎重な対応を求める意見がいくつかの学会から出され、もう一度、会の性格や会則案について各学会に持ち帰って検討することになった。」

これについて常任理事会として討議。気象学会として連絡協議会に参加していくことを再確認し、一致できる課題について共同行動にも参加していくことにする。気象学会の協議会委員について庶務担当理事のほかに2名をあてることにし、候補としてあがった数名の会員に庶務担当理事が打診することとした。

6. 第32回宇宙空間科学 (COSPAR) 総会について

1998年7月に開催予定の標記会合について、気象学会の共催の打診があった件につき討議。学会として共催に応ずべきとの結論になり、可能な範囲で財政的負担にも応ずることとする。正式の共催依頼文書を出してもらうよう連絡する。

7. 電子図書館システム試行に関する協力依頼について

文部省関連の財団法人・学術情報センターでは、学会誌等を画像データベース化し、オンラインで検索・表示等を行う「電子図書館システム」の試行を情報処理学会等3学会の協力で1994年度から実施していたが、今年度から協力学会の範囲を拡大することになり、気象学会にも協力依頼があった。常任理事会としても協力すべきとの結論になり、詳細については、庶務担当理事や事務局で詰めていくことと

する。

8. 第2回アフリカ気象学会技術会議の支援依頼について

標記会議への支援の依頼がアフリカ気象学会からあった。第1回のときと同様に、財政的な援助は今回も難しいが、参加者の派遣については積極的に協力することとし、参加希望者があるかどうかの調査も含めて国際学術交流委員会に任せることとする。

9. 名誉会員の選任について

8月10日に関口、木田、大西の各理事に股野宏会員を加えたメンバーで「名誉会員の選任に関わる検討委員会」を開催し、なお数名の名誉会員を推薦することが適当かどうか等について議論した。その結果、国内・国外の「日本人」については現在の名誉会員で当面は十分との認識となった。ただし、外国人の名誉会員を選任することについては、検討の余地があるとの結論になり、現理事を中心に推薦委員会を設置して選任の是非を議論してもらうことが適当との答申が出された。常任理事会としてこの結果を了承し、推薦委員10名についても了承された。大阪の秋季大会時に第1回の会合をもつこととし、庶務担当理事と事務局で必要な調整を行う。

10. 第4回理事会の議題について

庶務担当理事から提案のあった議題について一部修正のうえ承認。